

平成26年 網走市議会
経済建設委員会会議録
平成26年2月25日(火曜日)

○日時 平成26年2月25日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計の進捗状況について
2. 行政視察の実施について
3. その他

○出席委員(6名)

委員長	佐々木 玲子
副委員長	小澤 陽平
委員	工藤 英治
	栗田 政男
	古都 宣裕
	山田 庫司郎

○欠席委員(0名)

○委員外議員(1名)

議長	小田部 善治
----	--------

○傍聴議員(6名)

飯田 敏勝
金兵 智則
高橋 政行
平賀 貴幸
松浦 敏司
渡部 眞美

○説明者

副市長	大澤 慶逸
観光部長	田口 桂
観光課長	田口 徹
観光課参事	武田 浩一

○事務局職員

事務局 長	佐藤 明
次 長	吉田 正史
総務議事係長	岩尾 弘敏
係	松山 俊

午前10時00分開会

○佐々木玲子委員長 それでは時間になりましたので、経済建設委員会を開催いたします。

本日の委員会は、天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計の進捗状況についてと、行政視察の実施についての2件を予定しております。

では1件目、天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計の進捗状況について、武田浩一観光課参事より説明を受けたいと思います。

○武田浩一観光課参事 それでは天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計の進捗状況について、現在実施設計を行っているところでございますが、その内容につきまして御説明申し上げます。

資料1号をごらんください。

初めに1、天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計についてでございます。

基本的には、基本設計に基づいていますが、2ページから階層ごとに平面図とイメージパースを添付しております。

2ページをごらんください。地階の流水幻想ギャラリーとなります。

左側に5面マルチスクリーンを活用した流水幻想シアター、右側に本物の流水を展示する流水の世界体感室、中央にクリオネなど流水館の生き物を展示する水槽やプロジェクションマッピングを活用した演出、オホーツク海になぜ流水が来るのかなど、流水の不思議がわかる奇跡の流水物語を配置した構成としております。

3ページをごらんください。1階の観光情報ギャラリー、ギャラリーショップとなります。

観光情報ギャラリーについては旅のエピローグ、プロローグの場所とした情報を大型写真パネルやマップなどを利用するとともに、旬な情報提供や観光客が旅の思い出や感想などを記入できるメッセージボードも設置した情報提供ギャラリーとしております。

議会で御議論もありましたが、女性に選ばれるという観点が重要となるため、女性トイレにはパウダリングカウンターを設け機能の充実を図っているところでございます。

4ページをごらんください。2階のカフェレスト

ランギャラリー、多目的ギャラリーとなります。

図の右側にカフェレストランを配置し、左側に多目的スペースを配置するとともに、春から秋にかけてはテラスからのパノラマ景観も楽しめます。カフェレストランの席数は、42席程度を確保する機能スペースとしております。

5ページをごらんください。屋上階の風を感じる展望ルーフになります。

屋上階の風徐ホールのガラス面を多くすることで、室内からも最大に眺望を確保いたしました。また転落防止の立ち上がり壁についても透明ガラスを使用し開放感を持たせています。

御意見でもありました360度の確保という点については基本的にはルーフに立ったときに、風を感じながら左右上下の広がりができるだけ確保したいと考え、屋上階の風徐ホールについても、ガラス面を極力使用することで、360度ができるだけ確保いたしました。さらに2階の転落防止の立ち上がり壁についても、ガラスを使用して眺望の確保に努めたところでございます。

6ページをごらんください。色づけした立面図でございます。

外壁仕上げについては景勝地に一致する施設が定着している現施設を継承しつつ、白系を基本とし、下層部については茶色のレンガタイルや木彫ルーバーを使用し、周辺景観を損なわないように配慮した色彩としております。

以上が実施設計の概要となりますが、同じ天都山エリアに隣接する道立オホーツク公園も北海道による再整備が進められており、屋内施設や大型遊具などによる施設の充実が図られることから、中標津町にある家族連れなどに人気の高いゆめの森公園のように、天都山エリアへ市内や近郊からの集客も期待できることから、引き続き天都山エリアの各施設等との連携や機能分担を図りながらエリアの魅力を高めたいと考えております。

1ページにお戻りください。2、その他について御説明申し上げます。

初めに(1)供用開始時期についてでございますが、平成27年8月1日土曜日を予定しております。

当初、平成27年度の半ばを予定しておりましたが、例えば10月、11月は観光シーズンの閑散期の時期でもありまして、供用開始の時期としてはインパクトが弱いため、観光シーズンの最盛期でもあり、夏休み期間中でもありますこの日を供用開始の予定

としております。

次に、(2)事業費についてでございますが、8月1日を供用開始予定とすることから、冬期間の工事を行う必要があり、冬期養生工事の経費が必要となること及び建物の形状、流水体感室の設備、展示などの施設の特性などから、実施設計において床面積工事費の詳細積算をしているところですが、これらのことから6,000万円の増額の見込みとなるものでございます。

前回の委員会では概算事業費で16億8,000万円との報告をさせていただいておりましたが、ただいま御説明させていただきましておき、6,000万円の増額との見込みとなるため、事業費としては17億4,000万円となる見込みでございます。

以上が、天都山展望台・オホーツク流水館建設実施設計の進捗状況でございます。

○佐々木玲子委員長 皆さんのほうから質疑ございましたら。いかがでしょうか。

○古都宣裕委員 今のところの進捗状況ということで基本設計からの実施設計に入るにあたって、何か特別変わったところというのは余り見当たらないのですけれども、内部についても例えば近年でつくったものでいえばモヨロ貝塚館をつくったと思うのですけれども、そのモヨロ貝塚館にあたって、例えば学芸員の方とかが入った上で専門性を少し見せ方を特化するように、いろいろ研究されたりした部分があると思うのですけれども、そういった例えば修学旅行とかを目的とするのであれば、社会教育部と連携を結んだりとか、そういった学芸員の方とかの知識とかも混ぜた上で、見せ方の工夫というのをもっとすべきだと思うのですけれども、その点いかがでしょうか。

○武田浩一観光課参事 基本設計から実施設計に至る段階等での施設内容の充実という関係だと思えますけれども、基本設計の段階、実施設計の段階から、まず流水館のスタッフ、現在説明をしているスタッフの職員も交えて、打ち合わせをしながら進めてきたところです。

また、北大の白岩先生という先生がいらっしゃるのですが、その先生にも網走のほうに来ていただいた際に、流水館の職員と流水等のことについて勉強会を開くなど継続して勉強させていただいて、展示のほうについて反映させようという形で、打ち合わせ等をしているところでございます。

○古都宣裕委員 流水館の施設の人が悪いというこ

とではなくて、例えば流氷の専門的な人たちの意見を直接取り入れることが大切だと思うのですよね。

モヨロ貝塚館というの、下のほうの貝塚は手づくりで見られるような形に仕上げたり、そういう部分の見せる形の工夫というのは絶対すべきですし、今話の中にも社会教育部の部分が出てこなかったのですけれども、そういった今後修学旅行等々でも使われるだろう施設でもあるとは思っているのですけれども、そういった人たちの例えば、社会教育としてはどういう部分を教えたいとかということもしっかり取り入れて見せるようにしていかないと、施設としては前の施設の見せ方となら変わらないと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○武田浩一観光課参事 修学旅行等のことについて、学習施設という形の御質問だと思いますけれども、その点につきましても地下一階の流氷の不思議、流氷がどのようにできるのかというようなところ、ここは主に流氷館のスタッフが解説をしているところなのですけれども、そこに流氷の不思議、流氷はどう成り立つのか、どこから流れてきて流氷につくのかということらをスタッフの言葉から説明するというような形で、御説明させていただくような形で今つくり上げていますけれども、そのほかに社会教育なり庁内各部も含めまして、いろいろな意見を聞きたいと思っております。

○古都宣裕委員 私の意見としては、社会教育部ともう少し連携をきちんととったほうがいいのではないかとこの意見なのですけれども。

あともう1点、これだと6ページになると思うのですけれども、基本的に設計図で正面から見たほうを主に、いろいろ見せていただいているのですけれども、団体観光客からすると、逆側天都山の入り口で監獄博物館とかあるほうから上がってくる人が多いとは思っています。

空港利用とか考えても、道がわからない人とかだったら、国道を走ってあそこから上がってくる人も多いのではないかなというふうに考えるのですけれども、そうするとよく目にするほうといたら逆側になるのですけれども、そのほうの、例えば下から見たときに何の建物かわからないようなものにはなっていないかなというのが、色合いとかもないのではっきりとしたことはいえないのですけれども、そういった部分はいかかでしょうか。

○武田浩一観光課参事 国道39号線から監獄博物館を走って上がり口側のことのお話かと思うのですけ

れども、この辺につきましても、ガラス面を多用して景観もそうですけれども、景観も含めて中から見る景観も含めてなのですけれども、ガラス面を多用するような形でインパクトといいますか、作りに工夫を凝らしていることと、自然公園法の問題もありまして、色合いについては制限されている部分もございます。

そのようなことから、このような形、色ということで現在のところ進めさせていただいているところでございます。

○古都宣裕委員 一概に今の展望台の形で何かあるな、展望台があるなというようなわかりやすい部分もあるとは思っているのですけれども、それが全部いいとは言いませんけれども、一目で見てそういったわかりやすいというような部分も含めて、もう少し色合いというだけではなく、壁面に何か書くとかという部分もあるとは思っているのですけれども、もう少し検討の余地があるのでないかなと、私は思います。

以上です。

○佐々木玲子委員長 そのほかよろしいでしょうか。

○栗田政男委員 スケジュールの件なのですけれども、事業費云々、増加はこれ全体に上がっているからいたしかたないと思うのですけれども、来年の8月1日にグランドオープンということだと思っておりますが、非常にスケジュール的にはタイトなスケジュールで建設しなくてはいけないということなのですけれども、本当にこれが可能かどうかというのがちょっと心配な部分がありますが、その辺はどうでしょうか。

○武田浩一観光課参事 当市の建築課及びコンサルティング会社と調整の上、このスケジュールでいけるということの判断をいただいております。

○栗田政男委員 可能性としては可能だということなのでしょうけれども、タイトなスケジュールを設定することによって、仕事、発注の仕方が非常に急ぐ形になると思うのです。

そういうことによって、本来地元の業者がそこに参入するチャンスというものも、もしかすると阻害される可能性もあるのではないかとこのところを心配するのですが、その辺については十分検討されているかどうかをお聞きしたいと思います。

○武田浩一観光課参事 その辺も含めて、建築課のほうと打ち合わせをして、このスケジュールとさせていただきますところでございます。

○栗田政男委員 場合によっては8月1日の繁忙云々ということで。

僕はこれあまり繁忙期、最盛期の8月1日ということ念頭におく必要はないのではないかと、僕は逆に考えるのだけど、なぜその最盛期に少しでも観光の人たちの多い時期ということなのでしょうけれども、あまりそれにこだわることによって、本来のしっかりとした建物に対するものが、こうやってタイトなスケジュールを組むことによって阻害されるという心配はないのかなというのを再度検討していただきたい。

○田口桂観光部長 オープンの時期の問題というのは、建てかえという機会をとらえて、ここで多くの方に来ていただくことが、非常にこの施設の持続可能性というか、継続をひくためには重要なポイントではないかと、私ども考えております。

これは北海道全体ですけれども、特に網走の部分は7、8月のグリーン期、それから1月末から2月にかけての流氷期、この2つがピークとなるのは御案内のとおりだと思いますが、旅行エージェント等と、いまから建てかえの情報は共有して進めているところではあるのですが、やはりその方たちにも商品造成をたくさんしていただいて、たくさんのお客様に来ていただくということを一生懸命考えなければいけない上で、いろいろ打ち合わせなり情報交換をしている中で、やはりピークに旅行エージェントも、それから当然個人のお客様もそうですけれども、来やすい時期にオープンしていただくほうが、閑散期のオープンよりもかなりインパクトがあって、施設自体の一発目の露出というか、その部分では非常にオープンの時期が大事だというお話もいただいて、私どももそのように理解しております。

そうなると、おっしゃられるとおり工事スケジュールについては、決してゆるいスケジュールではないのですが、先ほどの説明のとおり年度半ばということを目指していたときに、そこでの一番早い時期というのはやはり10月とか11月になってしまうということもあって、そうするとそのインパクトをねらうためには、その次のピークの2月になってしまうということであれば、再来年の2月のオープンということになってしまうわけです。

少しでも早く網走観光にかかわるインパクトを与えなければいけないという部分もあって、やはり8月1日のわかりやすく夏休み期間中であるという日にできないかどうかということをも十分検討して、で

きるということで進めていこうということに至ったということをございまして、その辺御理解を願えればというふうに思います。

○栗田政男委員 そういうことで8月1日を設定したということは理解いたしました。

それで最初に私が話したように、大きな箱物インフラが目白押しなのですね。

そうすると、やはり網走市の事業者というのはもう限界というかキャパがいっぱいになっているという現状がありますので、そういう中で工事等発注されて、よほど慎重な考えを持って発注していただかないと、ややもすると本当に残念ながら、大手の外部から来た業者が持って行ってしまうということも、多分に予想されるので、そういう面もしっかりと把握しながら進めていただければ助かるなどという希望を持って、終わりにしたいと思います。

○佐々木玲子委員長 そのほかございますか。

○古都宣裕委員 関連してしまうのですが、8月1日のオープンについてなのですが、ピークに持ってくるという話が今、多々出ていたのですが、せつかく来てもらうのであれば、宿泊等々してもらって、網走市にお金が落ちるのがもちろんいいとは思っていると思うのですが、8月からのピークに考えると、8月はお盆時期で一番旅行しやすいシーズンで、もちろん流氷館がオープンしたらお客さんも来ると思うのですが、逆に考えると周辺の宿泊施設が一番困る閑散期対策には使おうという部分は考えなかったのかなと。

宿泊旅館業組合とかとお話もした上で、例えば8月からだとラグビーとかの合宿が始まっていますよね。その中にさらに誘致をやっても、キャパをあふれさせたら意味がないと思うのですよね。

その中で一番いい経済のまわし方として、日付を決めたほうがいいと私は思うのですが、いかがでしょうか。

○田口桂観光部長 今の御意見、その部分について、要素としてあると思います。

ただ、その閑散期対策ということで、その1回目のというか、そのオープン時の効果については、そういう側面もあるのかなというふうには思うのですが、ただこの施設、今後ずっと継続した部分でいかなければいけないということもありますので、やはり、世の中という外部にどのようなインパクトを、この施設に対するインパクト、露出をどの部分にいったら一番いいかというのはオープン、供用開

始の時期だけではなく、それ以降にもつながってくるというふうに考えております。

このことから、この時期というかこの日がいいという判断をしたところでございます。

○古都宣裕委員 継続性を求めるのであれば継続性で一番重要なのは、中身でオープン時期ではないと私は思いますので、その辺も、もう少し吟味した上で一応予定となっているので、決定の部分についてはいろいろな部分の各方面からも意見も入れた上で、決めていただければと思います。

以上です。

○大澤慶逸副市長 オープン時期について、いろいろな御意見をいただいておりますけれども、私は1日も早く完成させてオープンすべきではないのかというような御意見のほうがあるのかなと思っていましたけれども、工事の心配等もお話の中でありまして、しっかりとした工事するためには急いだオープンというの若干考えなければならぬというような御意見だと思いますけれども、こういった施設は建てた以上はできるだけ早くオープンして、世の中にデビューさせたいというのが、やはり私どもの考え方でありまして、建築課だとかそういった精通者の方々からの意見もいただきながら、オープンの日を8月1日ということで、既に昨年からですけれども、旅行エージェント等にそういった情報も流しながら早めの商品造成をしていただくだとか、早めのPRをしていただくというようなことも取り組んでいるところでございますので、何とか8月1日のオープンを目指して、工事のほうもしっかりやしていきたいというふうに考えていますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

○古都宣裕委員 オープン供用の時期もそうですけれども、何より一番重要なのは、私は中身の充実のほうだと思うので、もちろんその辺を詰めた上で日程変更が必要なのであれば、その辺は臨機応変に対応すべきだと思うので、オープンの供用時期に一番とらわれて、中身がおろそかになることなく、決めていってほしいなと思います。

以上です。

○山田庫司郎委員 今副市長からもお話ありましたが、二人の委員からオープンの日に関係が議論になっているのですが、私は逆に言うと、先ほど副市長言われたように、5月の連休あたりに本当にオープンできないのかとも思いますが、栗田委員からあったようにタイトなその日程、行程

含むいろいろな阻害なり、リスクも負うということもひとつあると思うので、これはやはりいろいろな部分で8月ということに今、予定ということで今お話があったわけですから、なんとかここをオープンできるように私は逆に頑張ってもらって、観光客がやはり一番多いときにオープンして見ていただくということも、私は大変大切なことだというふうに思います。

それでオープンするからにはもちろん平成27年度ですから、いまある古い流氷館も撤去になって、先ほどちょっと言われた中標津の道立公園の事例も出ていましたけれども、道立公園と距離はちょっとありますけれども、周辺整備も含めていろいろまた検討いただくような話も委員会の中でしている経緯がありますので、できれば8月1日に周辺の整備も、それからもちろん旧流氷館についても撤去になっているということで、これは確認したいのですがその辺はどうなのでしょう。

○武田浩一観光課参事 旧流氷館の施設につきましてはオープン開始日まで一週間程度、10日程度あるかもしれませんが、継続して実施をしていくような形になっております。継続営業する形になります。

工事中も含めて継続営業していったら、引越しの時間が1週間なり必要かもしれませんが、基本的には休むことなく、次の新しい施設で営業開始するという形になりますので、オープンしてから旧施設は解体をするという形になっていきます。

道立公園との連携についての公園の整備につきましては、担当のほうである都市開発課ともいろいろ協議の上、今後実施設計も含め進めていくような形で、今スケジューリングをしているところでございます。

○山田庫司郎委員 建物がなくなると、壊してしまうと観光客が来たときに、流氷館に入ることができないということで、できれば旧の部分が新しいものができてオープンしました。旧はそこで閉じるのだと思いますけれども、そうしたらこちら側を見せながら、今度は解体作業をやはりしていくということになるのですね。

それと、できればオープンするときには、周辺整備も含めて、ある程度のものができているというふうにちょっと望みたいなど希望したいのですが、その辺というのは、平成27年度の予算づけも含めてできるのか、どのぐらいのことを考えているのか、ち

よっとお聞きしたいなと思います。

○田口桂観光部長 スケジュールの関係でございますが、今、山田委員おっしゃられたとおり、一番いいのは、全部できてからオープンできるのがやはりベストの形だとは思いますが、先ほど副市長のほうからもお話あったとおり、1日でも早いオープンというところもあって、スケジュール的いうと、もう一方で休館するというのは非常に収益としてはマイナスな部分もありますので、やはり周辺整備といっても物理的にその工事が可能かどうかというのがある、現実的には建物ができて、そこで準備をしながら既存の施設も営業しながら、それで8月1日にオープンします。

その段階ですので、その今ある現状の施設の周辺についての整備というのは、物理的になかなか難しいというところもありますので、現状的には第一駐車場側に建物の位置が来るので、旧施設はその奥側というか、駐車場から見ると奥側になるので、現実的には駐車場からすぐ入れるというところになりますので、周辺整備はまだ全部整っているわけではないのですが、その辺についてはベストではないけれども、その中で一番あらゆる状況を考えて中で、全部整ってはいないのだけれども、まず8月1日に新施設がオープンをするというふうに考えております。

○山田庫司郎委員 わかりました。

ただ、今度はどんどん観光客が入ってきて、新しい流氷館を見ていただくと。

こちらでは、時期はどの辺でやるのかちょっとわかりませんが、解体工事があって、下の駐車場含めてどういう搬出をしたりするという、その工事の内容にもよると思うのですが、ちょっと混雑する時期がきつとあるのだと思います。

その辺の対応を含めて、きちんとしていくということと、決して古い建物があるから美観を損ねるという意味ではないのですが、部長が言われるように本当は新しい形でちょっと休館してもいいから、オープンするときには、周りもある程度きれいになってここだよという話が一番いいのかもしれませんが、休館しないで流氷館に来る観光客もいるということなら、そこは受け入れをしていくということで理解をさせていただきたいと思います。

それで事業費が6,000万円程度という建築費の増額の見込みと、それと工事費の増が実施設計で面積の関係でということを書いていますけれども、これ

は平成26年度予算も出てきていますから、補正か何かで対応するのかなのですが。

新年度予算をちょっと切りかえるのか、どういう対応を考えているのかなと。

○武田浩一観光課参事 6,000万円の増額については、新年度予算の中に含めさせて計上させていただいているところでございます。

○山田庫司郎委員 今回説明あったのは新たにではなくて、既に平成26年度予算に組み入れられた中での話ということでわかりました。理解いたしました。

○佐々木玲子委員長 そのほかよろしいでしょうか。

○小澤陽平副委員長 多々スケジュール等の話が出たのですが、この8月1日という設定した中で、スケジュールでちょっとわからないところがあるのですが、建物の完成は例えば平成27年度3月31日までで終わって、それから中のテナントや展示関係を行い、そしてその後、最後のひと月くらいで引っ越しなどを行った上で8月1日にオープンしますよと。

そのあとに、既存の解体工事が少したつてから、何カ月かわからないですけどもやって、外構工事やって駐車場にするようなスケジュールになるのかなと思うのですが、その辺の詳しいスケジュールがわかれば説明をしていただきたいと思います。

○武田浩一観光課参事 スケジュールについては、基本的に本体の建物の部分については、平成26年度に完成予定です。

8月1日のオープンを目指し、平成27年の4月から6月末か7月初め半ばぐらいまでに内装、展示の部分等含めて実施をしていく。

その後は、オープンをしてから9月から3カ月程度になろうかと思いますが、旧施設の解体工事をしていくというようなスケジューリングでございます。

○小澤陽平副委員長 だいたいスケジュールは思っていたとおりかなというふうに思うのですが、その中で今回8月1日にしたということで、下の事業費のところ冬期間の工事が必要となると書いてあるんですけど、スケジュールが早まったから冬期の工事があるのか、それとも通常想定していた中でも冬期の工事があるのではないかなという感じはするのですが、その辺はどういうふうに認識したらよろしいでしょうか。

○武田浩一観光課参事 当初平成27年度も半ばとい

う予定をしております、その時点では当初27年1月から3月は工事をやらない、休工といたしますか、そこで工事をしないという予定でした。

ただし、いろいろなスケジュールの中で8月ということになったので約3カ月程度前倒しになって、その1月から3月の期間についても工事を組み入れるという形になりました。

そこで、冬期養生の経費が必要となってくるということでございます。

○小澤陽平副委員長 冬期工事の関係についてわかりました。

最後に、実施設計に着手しているところで、床面積の増というのがあるのですが、それはどのぐらいの増があるのかというのをお示してください。

○武田浩一観光課参事 当初、基本設計の段階で2,008平米というようなことで御報告させていただいていたかと思いますが、今回の精査している部分で2,071平米、約63平米の増という形になっているところでございます。

○小澤陽平副委員長 わかりました。

床面積と工事費の増額ということで金額がどうかということで、どうしても工事費が右肩上がりだと。資材など上がっているというのは耳にしますが、やはりなるべく予算を抑えて行えるのがベストだと思いますので、今後はコンサルタントとVE、バリューエンジニアリングを取り入れながら、なるべく工事費の縮小をできるように、原課のほうでもやっていただきたいと思います。

以上です。

○佐々木玲子委員長 そのほかはよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では大体意見が出つくしたようですので、天都山展望台・オホーツク流氷館のこれからの進捗について、ぜひまた、きょうの御意見を踏まえて善処していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○佐々木玲子委員長 次に行政視察の実施について行いたいと思いますので、理事者に退席を願うのですが、前にその他の案件はございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

委員の皆さんからございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、ここで理事者の方に御退席い

ただくため、休憩いたします。

午前10時35分休憩

午前10時36分再開

○佐々木玲子委員長 再開いたします。

まず行政視察についてですが、本年度は5月に行うようになるかと思いますが、まず行うかどうか皆さんの御意見を伺いたいと思います。

行うという方向でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

まず内容については、もう少しちょっと時間かかるかなと思いますので、まず日程についてここで決めておいたほうがいいのかと思うのですが。生活福祉と総務文教委員会が、5月12日の週に行くことに決まったそうです。両方一緒に何か委員さんたちの日程の関係で、同じ週に出るそうです。

うちの場合は、19の週か26日の週になろうかと思うのですが。何か日程的に今から決まっているのであれば、そこは避けたいと思いますが、19日の週がよろしいですか。

〔「26日の週で」と呼ぶ者あり〕

○山田庫司郎委員 6月議会が10日ごろからの予定なのかな。

そうなると、初回の経済建設は2日の予定だということだけでも、全体の中でどういうことになるかということあるので、そうなると26日の週でも、議会的な部分は問題ないのだね。

○佐々木玲子委員長 ぎりぎり大丈夫じゃないでしょうか。

そうしますと26日の週がいいという、していただきたいという声もありますので、26日の週で行うということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

何とか6月議会には支障きたさないようですので、では、26日の週で出発ということで日程的には決めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでですね、視察項目、視察先の選定についてなのですが、これにつままして今現在、こういうところがという案を持っていらっしゃる方がいれば、お話をいただきたいと思うのですがどうでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

まだ今のところ具体的にはまだないようですね。

それでは、3月の定例会のときに3月10日に付託委員会がございます。それまでに、皆さんの案なり

希望とか、こういう視察項目でやっていただきたいというようなことを、事務局か正副委員長のほうにお声をかけていただいて、3月10日の日にきちんと内容的に決めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ではそれまでに皆さんからの御意見を届けていただくようお願いしまして、行政視察の件につきましては、まず出発日程が5月26日の週ということで、あと細かい内容については3月10日の日に詰めるということで、決めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○佐々木玲子委員長　ここで委員会を閉じたいと思いますが、そのほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で、経済建設委員会を終了いたします。

午前10時41分閉会
